

3 管理運営に関する自己評価

(1) 考古資料の展示及び特別展示等の開催

実施結果

展示においては、常設展示のほかに、特別展示を2回、合同企画展を1回、速報展示を3回、企画陳列を6回(内1回は同一内容の【再開】)実施した。また、外部展示を継続して実施した。

特別展示では、「京都文化遺産を千年先へ！ ―京都市文化財保護課の挑戦―」を前年度からの継続展示として開催した。「平安京をつくる・たもつ」では、平安時代前期から中期の平安京の遺跡や瓦窯の最新の調査成果を展示した。「鎌倉時代の京都」では、鎌倉時代の市街地中心部や郊外の様々な遺跡・遺物を紹介している。

合同企画展では、京都市立大学学生の展示企画を受けて、「三条せと物や町」出土桃山茶陶と学生が制作した作品を並べて展示することで来館者から大きな反響を得た。

速報展示では、新型コロナウイルス感染症の影響で現地説明会が開催できなかった発掘調査成果の紹介に努めた。企画陳列では、京都市歴史資料館特別展に連携して、鉄道に関わる出土遺物や京都市営地下鉄建設に伴う発掘調査成果の展示を企画した。常設展示では、踊り場に設置したプロジェクタでの投影プログラムの作成、5か国語版展示解説シートの新規作成による展示内容の充実を行った。

また、外部展示を通して、市内各所にて市民の関心を集める様々な考古資料の紹介に努めた。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(2) 考古資料に関する普及啓発事業の実施

実施結果

新型コロナウイルス感染症の影響で、京都市立中・総合支援学校「生き方探求・チャレンジ体験」、小・中学生夏期教室、遺跡見て歩き、ミニ講演会などの事業を中止した。

文化財講座は、事前申込、定員制限などの対策を取りながら9回実施した。参加者は年度後半に向けて増加傾向にある。また、感染拡大防止策を講じながら、博物館実習、教育機関・関係機関の見学等の受入れを通じて、埋蔵文化財の普及啓発を図った。

さらに考古資料の貸出し等による出土品の活用、『リーフレット京都』・『京都歴史散策マップ』の配布や、ホームページ・Facebook等による情報発信を行った。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(3) 考古資料に関する関係機関との連携強化

実施結果

事業の開催数はコロナ禍前よりも減少しているが、国、京都市、区役所、大学、地域のNPO団体や文化団体等と連携し、文化財講演会、史跡ウォークなどのイベントや出前授業などに積極的に取り組んだ。また、合同企画展、普及啓発事業の中で市内に所在する大学や学術機関との連携を深めるとともに、京都歴史文化施設クラスター実行委員会に参加して、参加団体との連携・協業による各種事業に取り組んだ。

自己評価

目的が十分に達成されている。

(4) 入館者数の状況

実施結果

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出を受けて、4月25日から5月31日および8月20日～9月30日の期間を臨時休館したため、年間の開館日数は244日となり例年より64日、2年度よりさらに29日少なくなった。入館者合計は11,688人で2年度よりさらに減少したが、一日平均の入館者数は48.1人で、やや回復している。

自己評価

密な状態の大人数での活動が広く自粛されたことから、コロナ禍における一般入館者の減少、特に団体見学者の減少が、入館者数減少の要因と考えられる。また、文化財講座等の催しの中止や参加人数制限も影響を与えている。

今後も感染拡大防止策を講じながら、魅力的な展示や普及啓発事業を開催することで、京都の埋蔵文化財や文化への関心を深めていただけるよう、一層の充実に努めたい。

(5) 施設の維持管理

実施結果

冷暖房設備等の定期点検や清掃業務等により、施設の維持管理を適正に実施した。施設全体の老朽化が進んでおり、今年度については男子トイレ小便器の洗浄、外燈球取替工事を実施した。今後も継続的な老朽化への対策が必要である。

自己評価

目的が十分に達成されている。